伝統芸能

花鼓

文楽太夫 豊竹英大夫

賛美義太夫を語る豊竹英大夫

十五年前、C型肝炎を患った。精密検査を経て本格入院する前夜、クリスチャンの私は家内と教会の祈り会に出席し、牧師をはじめ教会の方々に手厚く祈ってもらった。その祈りのさなか、おなかが熱くなった。肝臓の形状がくっきり浮び上がり、赤く燃えるようだった。

入院し、週三回のインターフェロン治療が始まったのだが、一週目の血液検査の結果を見て主治医が驚いた。「C型肝炎ウイルスが消えています！」と。医師には信じてもらえなかったが、神癒を確信した。

これがきっかけとなり、イエスキリストの生涯を語る賛美義太夫が生まれ、人形入りの「ゴスペル・イン・文楽」へと繋がった。これまで、北海道の美深から沖縄の那覇にかけて六十七回もの素浄瑠璃の場が与えられ、イエスキリスト、マリア、ペテロなどの人形が登場する文楽公演は十三回を数える。いつも満杯になる会場。文楽を初めて観るクリスチャン。静謐な空間のなかには大勢の文楽ファンの姿もある。アンケートを通し、「初めて触れ、感じた」という新鮮な感動が、両者から寄せられた。

キリスト文楽

創作ものは古典作品の偉大さから比べるとほんの些細。シャボン玉のように生じては消えていく。しかし、「現代」が醸し出した作品には、古典語の壁に阻まれて感受しがたい文楽本来の魅力、美のマグマを現実のものとして垣間見る瞬間がある。

このたび、「ゴスペル・イン・文楽」の日本語・英語字幕入りDVDが完成。感無量である。

演